



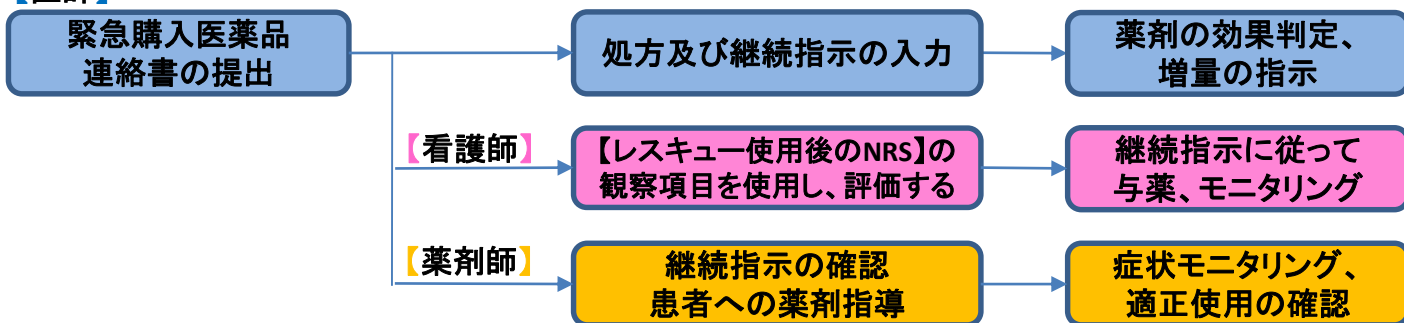
イーフェンバッカル錠の処方時には、 継続指示を入力してください！

イーフェンバッカル錠は、フェンタニルの口腔内吸収製剤であり即効性製剤です。
従来の速放性製剤と違い、定時投与しているオピオイド量とレスキューに使用する
フェンタニルの有効量の相関性が低く、用量設定する際に注意が必要な薬剤です。

使用方法が複雑なため、医療安全上の観点から、緩和医療チームおよび医療安全管理
室と相談し、以下の運用の流れで行うと共に、2つの対策を行っております。

【運用の流れ】

【医師】



薬剤部では緊急購入薬品連絡書を受け付けた時点で、緩和ケアチーム担当薬剤師に連絡が入り、
継続指示の確認をさせていただきます。
また、薬剤師より、患者さんへ服薬指導させていただきますのでよろしくお願いします。

【対策について】

① 処方時の注意喚起メッセージ

イーフェンバッカル錠は至適投与量の設定が必要です。
専用の継続指示入力をお願いします。

※処方オーダー時に上記メッセージがポップアップで表示されますので、ご確認下さい。

② イーフェンバッカル錠使用時の継続指示の統一

全科共通の継続指示として下記テンプレートがありますのでご活用ください。

【イーフェンバッカル錠投与指示】

- ① イーフェンバッカル錠() μ g 1回1錠 バッカル部位(上唇と歯茎)の間に投与
- ② 30分後に効果判定してください。効果ない場合はイーフェンバッカル錠() μ g 1錠を追加投与する。
- ③ ①投与から4時間以内に疼痛増強があった場合は()を投与する。
以上を4時間以上空けて、1日4回まで繰り返し可能とする。
2回以上続けて②に該当する追加投与が必要な場合は主治医へ報告してください。

原則として初回はイーフェンバッカル錠50 μ gから開始し、増量した場合は()内の数字を変更して
入力してください。

また、イーフェン以外の疼痛時対処薬の入力もお願いします(③)。

【参考:イーフェンバツカル錠の適正使用ガイドより】

① 開始用量の決定:オピオイド定時投与量から50又は100 μgを選択する。

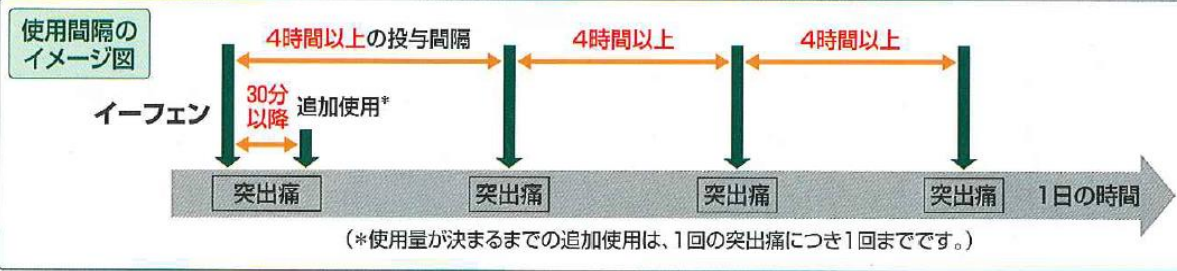
<開始用量の目安>

イーフェン 開始用量	対象となる患者の強オピオイド定時投与量								
	モルヒネ			オキシコドン		フェンタニル			
	経口 (mg/日)	直腸内 (mg/日)	静脈内/皮下 (mg/日)	経口 (mg/日)	静脈内/皮下*2 (mg/日)	経皮(mg)		フェンタニル/経皮 1日貼付型	静脈内/皮下 (mg/日)
						フェンタニル 1日貼付型	3日貼付型		
50 μg	30~60未満	20~30未満	10~20未満	20~40未満	15~30未満	0.84~1.7*3	2.1~4.2*3	1~2*3	0.1~0.2未満
100 μg	60~	30~	20~	40~	30~	(0.3~0.6mg/日)*4			
等力価換算比*1	1	1/2	1/3	2/3	1/2	1/100			1/300

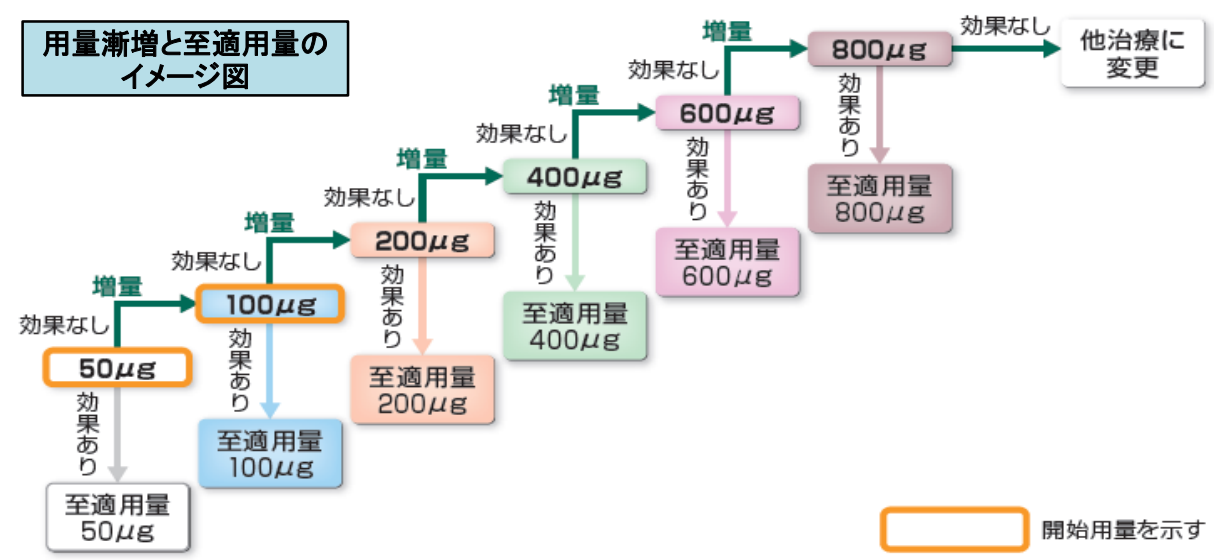
* 1:等力価となる換算比は2剤以上の強オピオイドにて定時投与を実施している場合に経口モルヒネ相当用量を算出するために使用する。
* 2:経口オキシコドン製剤の1日投与量の0.75倍として換算。
* 3:フェンタニル貼付剤の同一用量の規格が重複していますが、患者の症状や状態により、50又は100 μgの開始用量を選択してください。
* 4:定常状態における推定平均吸収量(フェンタニル)から換算。

② 鎮痛効果の評価:開始用量を投与し、鎮痛評価を行う。

- ・投与間隔は、追加投与を除き、**前回の投与から4時間以上の投与間隔をあける。**
- ・鎮痛効果が不十分な場合、**30分後以降に同一用量までの追加投与を1回のみ可能。**



③ 1回の使用量で効果不十分な場合:1段階ずつ増量し②と同様に鎮痛効果を評価する。



④ 至適用量の決定:②と③を繰り返し、十分な鎮痛効果が得られる用量を「至適用量」とする。

ご不明な点につきましては、薬剤部・医薬品情報管理室(内線7083)
または緩和医療チーム担当薬剤師(船渡PHS 7366、星野 PHS 7367)までご連絡ください。

(文責:星野)